

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： iPS 細胞を用いた造血器腫瘍の病態解明と治療法の探索

2. 研究代表者： 黒川 峰夫（東京大学大学院医学系研究科 教授）

### 3. 中間評価結果

造血器腫瘍由来 iPS 細胞の樹立及びその病態の解析について、当初研究計画に沿って順調に進展している。

数種の造血器腫瘍の細胞から iPS 細胞の樹立に成功し、血球への再分化による研究リソースの確立を行って、病態解明や治療法開発へ展開させた。特に、慢性骨髄性白血病の研究については、iPS 細胞化することにより見えてきた、発症の鍵となる分子や薬剤耐性を示す未成熟な白血病細胞など、病態解明や新たな治療法の確立に繋がる望ましい展開があった。

樹立された造血器腫瘍由来 iPS 細胞は疾患モデルリソースとして重要である。今後、ライブラリー化が進み、多くの研究チームで使われるようになれば、リプログラミング技術を用いた白血病研究の新しいパラダイムとなることが期待される。樹立した疾患 iPS 細胞を軸に、ライブラリー作成から病態解析、創薬スクリーニングと幅広く展開しているが、今後は、積極的に論文及び国際学会での成果発表を行い、国際的な共同研究へと発展させていただきたい。

造血器腫瘍細胞からの iPS 細胞の樹立は大きな挑戦ではあったが、粘り強い研究で見事に成し遂げたことは高く評価される。是非、世界で誰も成功していない急性骨髄性白血病の iPS 細胞化に挑んでいただきたい。